

“Create the future with *n*”



2022年3月期 第3四半期 決算説明会資料

証券コード 6306

日工株式会社

専務取締役 藤井 博

2022年3月2日

□本説明会資料において当社事業のアスファルトプラントを『AP』、コンクリートプラントを『BP』と表記致します。

2021年度 3Q決算ハイライト ▶ **P. 3-4**

2021年度3Q決算説明 ▶ P. 6-18

トピックス 次世代メンテナンス(サブスク) ▶ P. 20-23

株主還元方針、株主優待 ▶ P. 24

参考資料 ▶ P. 26-29

会社情報 ▶ P. 31-35

※本資料の増減数値は単位未満の端数処理により
末端数値が四半期報告書と異なる場合があります。



- ・売上高、前年同期比+10.3%増、営業利益、前年同期比+13.5%増
 - ・売上高：全事業部門、前年同期比増。海外子会社も堅調に推移。
 - ・営業利益：増収効果の他、鋼材をはじめ原材料費高騰分を販売価格へ転嫁した効果が出始める。
- P.6,7、P.12



- ・BP事業、売上高、営業利益、受注高、受注残高ともに前年同期比増
- P.7、P.13
- ・その他事業分野の新製品、モバイルプラント・防水板増収継続
- P.15



- ・受注高、前年同期比 Δ 2.6%、受注残高、前年同期比 Δ 6.9%
- P.9,10

- 今期、第3四半期までの良かった点、進捗度合いが今一つの点について説明致します。第3四半期までは、増収増益で推移しております。売上高は、前年同期比10.3%増で営業利益も、鋼材をはじめとした原材料費の高騰分が相当ありましたが、それを打ち消すだけの利益が確保できました。
- セグメントの中では特に今期はBP、バッチャープラントの事業が非常に好調に推移をしています。一方で、少し低調なのが期中の受注高です。それに伴い、受注残高が前年同期と比べてマイナスとなっています。

2021年度 3Q決算ハイライト（2）



2021年度 3Q累計実績

(単位：百万円)

3Q (4-12月)	実績	対前年同期	対前年増減率
売上高	27,165	+2,533	+10.3%
営業利益	1,027	+123	+13.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	883	△82	△8.5%
受注高	28,146	△747	△2.6%

- ▶ AP事業売上：国内は製品、メンテナンスともに減となるが、海外がコロナ前に回復し対前年同期比+4.6%
- ▶ BP事業売上：製品、メンテナンスともに増となり対前年同期比+17.5%
- ▶ 受注高は、微減

事業環境

AP事業

21年度3Q (4-12月)	実績 (万トン)	対前年同期比
合材製造量	2,859	△0.5%
新規合材	751	△1.6%
再生合材	2,108	△0.1%

再生合材比率 73.7%

資料出所：(一社)日本アスファルト合材協会

BP事業

21年度3Q (4-12月)	実績 (万㎡)	対前年同期比
生コンクリート出荷量	5,848	△2.6%

資料出所：全国生コンクリート工業組合連合会・全国生コンクリート協同組合連合会

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

4

□決算のハイライトです。

売上が前年同期より10%増の271億65百万円になり、営業利益が13.6%増の10億27百万円になりました。四半期純利益が対前年比で減益でしたが、前期は特殊要因があった関係で減益ということでした。

□受注高は前年同期より7億47百万円減少して、281億46百万円となりました。事業環境として、アスファルトに関してはほぼ前年並みの合材出荷量となっております。生コンのは、前年同期より2.6%の減となり、出荷量自体はマイナスになりましたが、生コン価格は各社とも値上げが浸透しており、お客様の業績は堅調に推移している状況です。

2021年度 3Q決算ハイライト	▶ P. 3-4
2021年度3Q決算説明	▶ P. 6-18
トピックス 次世代メンテナンス(サブスク)	▶ P. 20-23
株主還元方針、株主優待	▶ P. 24
参考資料	▶ P. 26-29
会社情報	▶ P. 31-35

※本資料の増減数値は単位未満の端数処理により
末端数値が四半期報告書と異なる場合があります。

2021年度 3Q累計業績ハイライト (1)



- ▶ 売上 : 国内AP製品 (△3.8億円)、BP製品 (+8.3億円)、日工上海 (+4.1億円)、輸出 (+5.7億円)、環境 (+4.6億円)、搬送 (+1.3億円)、その他事業売上 (+2.3億円)、メンテナンスサービス (+1.2億円)、他 (+2.9億円)
- ▶ 営業利益 : AP事業を除くセグメントが全て増収となり売上増により増益
- ▶ 経常利益 : 前田道路㈱の特別配当金 (+3.4億円) 剥落により減益
- ▶ 受注高 : AP事業 (△10.3億円)、BP事業 (+11.6億円)、環境搬送 (△2.6億円)、その他事業 (△6.1億円)、合計 (△7.4億円)
- ▶ 受注残高 : AP事業 (△8.0億円)、BP事業 (+8.2億円)、環境搬送 (△4.0億円)、その他事業 (△7.5億円)、合計 (△11.3億円)

	2020年度		2021年度 (単位: 百万円)					
	3Q実績	3Q(累計)実績	3Q実績	対前年同期比	3Q(累計)実績	対前年同期比	通期予想	4Q予想
売上高	6,407	24,632	8,157	+1,750 +27.3%	27,165	+2,533 +10.3%	39,000	11,835
営業利益	△96	904	59	+155 -	1,027	+123 +13.6%	2,300	1,273
営業利益率	-	3.7%	0.7%	-	3.8%	+0.1pt	5.9%	10.8%
経常利益	△89	1,499	89	+178 -	1,194	△305 △20.3%	2,500	1,306
親会社株主に帰属する当期純利益	△133	966	16	+149 -	883	△83 △8.6%	1,700	817
受注高	9,857	28,893	10,075	+218 +2.2%	28,146	△747 △2.6%	38,800	10,656
受注残高	16,479	16,479	16,073	△406 △2.5%	15,342	△1,137 △6.9%	14,161	14,161

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

6

□昨年3Q (10-12月) との比較で説明いたします。今期の3Qの売上高は81億57百万円で前年より17億50百万円増えました。営業利益は59百万円となり、前期の第3四半期は赤字△96百万円でしたが、今期は黒字となりました。経常利益も89百万円、純利益も16百万円と、前年の赤字から今期は黒字となっています。受注高は100億75百万円、受注残高は前年同期と比べて若干のマイナスになりました。

□通期の業績予想は、売上高が390億円、営業利益23億円、営業利益率5.9%です。この数字を達成するために、第4四半期に必要な売上高は118億円、営業利益が12億円となります。

2021年度 3Q累計業績ハイライト (2)



(単位：百万円)

		2020年度			2021年度		2021年度 3Q(累計) 実績	対前年 同期比	通期予想
		3Q実績	3Q(累計) 実績	通期実績	3Q実績	対前年 同期比			
AP関連 事業	売上高	3,247	12,774	19,467	4,176	+929 +128.6%	13,365	+591 +4.6%	18,400
	営業利益	△105	535	1,239	△61	+44 +58.1%	327	△208 △38.9%	850
	営業利益率	△3.2%	4.1%	6.4%	△1.5%	+1.7pt	2.4%	△1.8pt	4.6%
BP関連 事業	売上高	1,274	6,192	9,212	1,690	+416 +132.7%	7,279	+1,087 +17.6%	10,700
	営業利益	△25	461	879	58	+83 △232.0%	667	+206 +44.7%	1,100
	営業利益率	△1.9%	7.4%	9.5%	+3.4%	+5.4pt	9.2%	+1.8pt	10.3%
環境及び 搬送関連 事業	売上高	513	1,572	2,390	614	+101 +119.7%	2,195	+623 +39.6%	2,900
	営業利益	94	286	482	136	+42 +144.7%	379	+93 +32.5%	550
	営業利益率	18.3%	18.1%	20.2%	+22.1%	+3.8pt	17.3%	△0.9pt	19.0%
その他 事業	売上高	1,373	4,092	6,790	1,678	+305 +122.2%	4,325	+233 +5.7%	7,000
	営業利益	188	565	1,170	306	+118 +162.8%	623	+58 +10.3%	1,200
	営業利益率	13.6%	13.8%	17.2%	+18.2%	+4.5pt	14.4%	+0.6pt	17.1%
全社費用		△248	△944	△1,469	△382	△134	△971	△27	△1,400

- ▶ AP関連事業売上高 : 国内製品売上高は対前年同期比△10.4%、メンテナンスサービス△2.7%と減少
海外売上高が、対前年同期比+35.5%となりセグメント全体では+4.6%と増加
- ▶ BP関連事業売上高 : 製品売上高が対前年同期比+25.3%、メンテナンスサービス+9.7%と増加
- ▶ 環境及び搬送関連事業売上高 : 環境製品売上高が対前年比+767.7%、搬送+10.3%と増加
- ▶ その他事業売上高 : モバイルプラントが対前年同期比+81.6%と増加継続もコロナ、原料高の影響より仮設機材が△13.8%

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

7

□セグメントについての説明です。第3四半期までの累計で、今期のAPの売上高は133億65百万円で、売上は昨年より5億91百万円増えましたが、営業利益は3億27百万円で、前年同期より2億円の減益となりました。減益になった要因として、特に鋼材価格等原材料費の値上がりの影響が一番出てきているのが、このAP関連事業です。

タイの現地事業が今期から本格稼働しましたが、現時点において赤字という状況ですので、その分が前年対比でマイナス。それから中国事業の日工上海の業績が、売上は前期よりも増収となりましたが、利益に関しては鋼材価格の値上がりに加えて、人件費等の販管費が、大きく増えている関係で大幅な減益となりました。その為、セグメントとして前年同期と比べて約2億円の減益ということになりました。

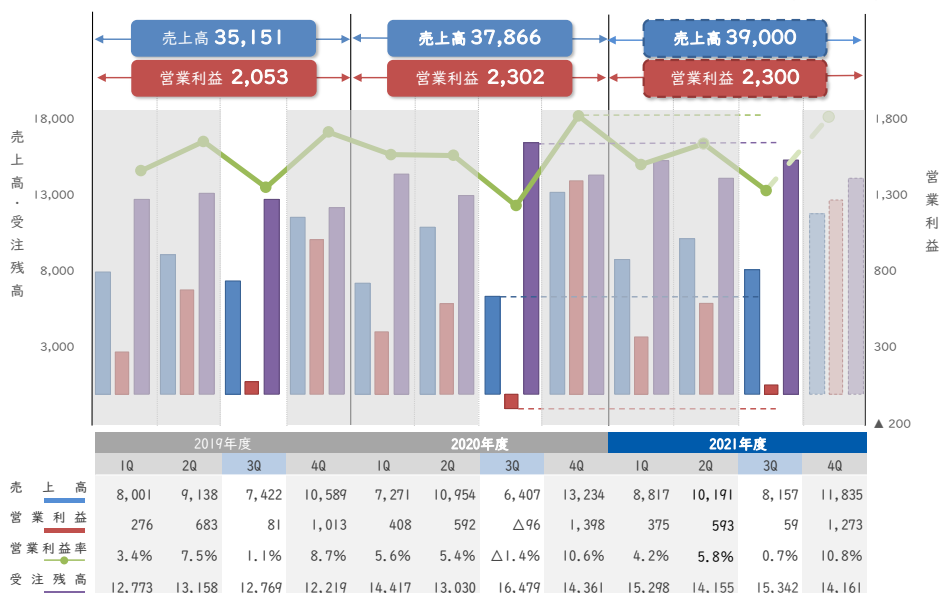
□BPに関しては、売上72億79百万円、営業利益6億67百万円と大幅な増収増益になりました。期初の受注残高が今期は非常に高い水準だったため、この水準はある程度予想していましたが、来期に向けて期中の受注状況も好調に推移しております。

環境および搬送関連事業は、売上が前年同期より約6億円増えて21億95百万円、営業利益も増えて3億79百万円となりました。環境関連の製品の売上高が前期はほぼ0でしたが、この増加がセグメントとしては増加要因になりました。

その他事業に関しては、売上が前年同期より約2億円増の43億25百万円、営業利益が58百万円増の6億23百万円となりました。

四半期別売上高・営業利益推移

(単位:百万円)



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

8

□次に、四半期ごとの業績推移です。今期2021年度の1Qから3Qまでの実績値、4Qは見込み値を入れています。参考までに2019～2020年度の各四半期ごとの数字も入れています。

当社の場合、例年、第1四半期、第3四半期の業績が苦戦をして、第2四半期、第4四半期に高い傾向があり、特に第4四半期に売上と利益が集中します。前期の第4四半期は売上132億円、営業利益が14億円でした。今期の第4四半期は売上118億円、営業利益12億円という予想です。この数字で着地すると予想しております。

3Q受注高（累計）推移



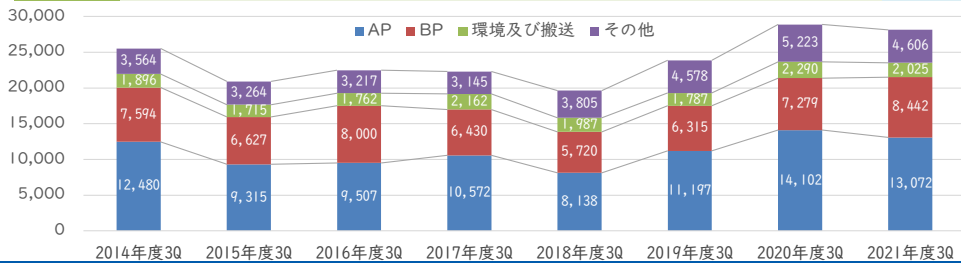
3Q推移

（単位：百万円）

	2014年度3Q	2015年度3Q	2016年度3Q	2017年度3Q	2018年度3Q	2019年度3Q	2020年度3Q	2021年度3Q	対前年同期比
AP	12,480	9,315	9,507	10,572	8,137	11,197	14,102	13,072	△7.3%
BP	7,594	6,627	8,000	6,430	5,720	6,315	7,279	8,442	+16.0%
環境及び搬送	1,896	1,715	1,762	2,162	1,987	1,787	2,290	2,025	△11.6%
その他	3,564	3,264	3,217	3,145	3,805	4,578	5,223	4,606	△11.8%
計	25,533	20,920	22,486	22,309	19,650	23,877	28,894	28,146	△2.6%

通期推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度予想	通期対前年同期比予想
AP	17,114	16,553	16,718	17,182	18,884	16,133	20,279	18,500	△8.8%
BP	10,069	9,517	9,966	9,066	8,438	9,478	9,961	11,500	+15.5%
環境及び搬送	2,711	2,796	3,203	2,948	2,773	2,402	2,875	2,600	△9.6%
その他	4,606	4,203	4,248	4,420	5,008	5,903	6,894	6,200	△10.1%
計	34,501	33,069	34,134	33,617	35,104	33,916	40,009	38,800	△3.0%



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

9

□ 足元の受注状況です。前期の受注が過去と比べても非常に好調で前年比で約50億円増えました。今期も前期並もしくは前年より少し増える見込みで、期初にスタートしましたが、結果として前年同期を若干下回って、全体で受注高281億46百万円と若干減少となりました。ただ、過去の数字と比べて、各セグメントとも非常に高い水準です。

BPに関して言えば、今期84億円となり（2016年度は80億円もありましたが）非常に高い数字で推移をしております。APは、130億円と昨年より約10億円受注が減りましたが、その前と比べると今期の足元の受注状況も決して低い状況ではありません。

3Q末受注残高推移



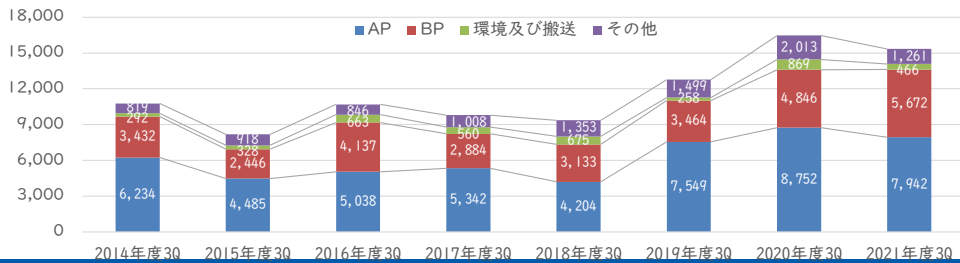
3Q推移

(単位：百万円)

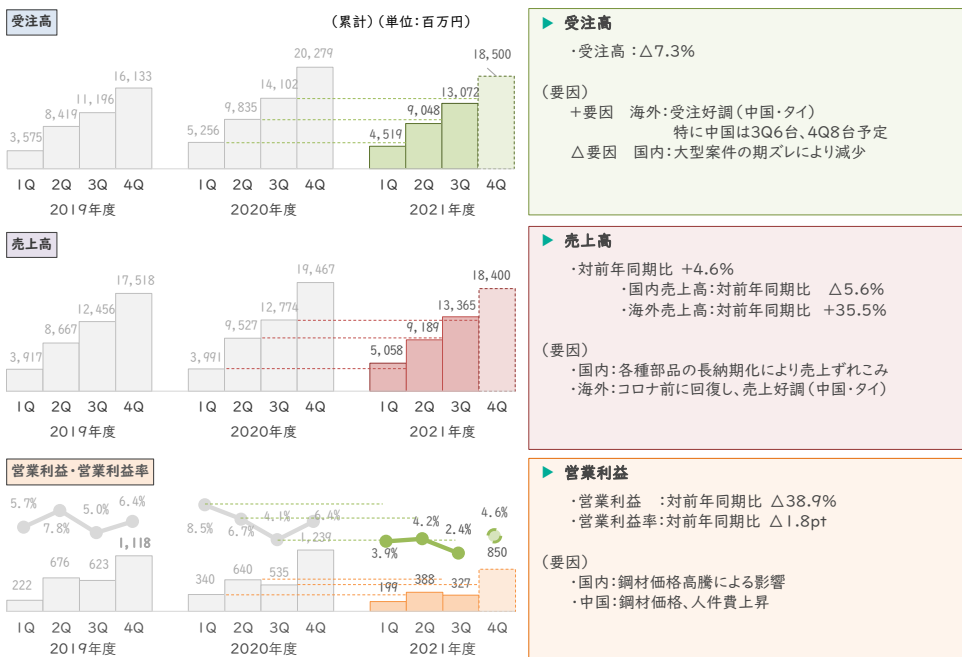
	2014年度3Q	2015年度3Q	2016年度3Q	2017年度3Q	2018年度3Q	2019年度3Q	2020年度3Q	2021年度3Q	対前年同期比
AP	6,234	4,485	5,038	5,342	4,204	7,549	8,751	7,942	△9.2%
BP	3,432	2,446	4,137	2,884	3,133	3,464	4,845	5,672	+17.1%
環境及び搬送	292	328	663	560	675	258	869	466	△46.4%
その他	819	918	846	1,008	1,353	1,499	2,013	1,261	△37.3%
計	10,777	8,177	10,684	9,793	9,364	12,770	16,479	15,342	△6.9%

通期推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度予想	通期対前年同期比予想
AP	6,728	6,028	6,357	6,359	8,809	7,424	7,370	8,335	+1.2%
BP	3,467	2,717	3,350	2,895	3,440	3,760	4,924	5,308	+17.7%
環境及び搬送	309	816	1,371	387	385	152	634	336	△47.2%
その他	535	437	551	491	821	883	1,445	181	△81.5%
計	11,039	9,997	11,629	10,132	13,455	12,219	14,373	14,161	△1.4%



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022All rights reserved.

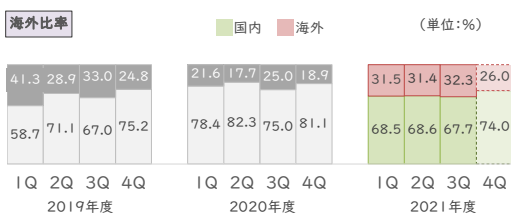
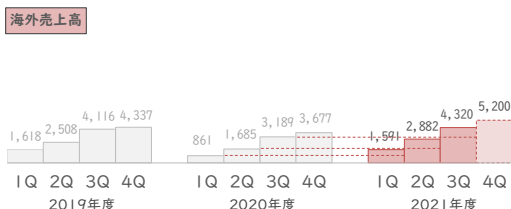
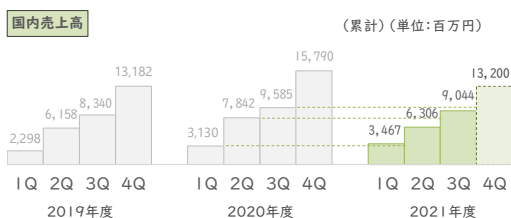
11

□各セグメントごとに、もう少し詳細にご説明をさせていただきます。

まずはAPですが、受注は前年同期と比べて若干のマイナスです。海外に関しては、中国、タイとも前年同期と比べて増えました。一方、国内が若干来期に先送りになっている案件がある関係でマイナスとなりました。

APの市場環境が少し悪くなっているのではないかとされている方がいらっしゃるかもしれませんが、来期のAPの受注見込みは今期の反動増もあり、大幅な受注増を見込んでいます。市場環境として、APの市場環境がマイナストレンドに入ったと言うことでは決してございません。

APの売上高は前期比4.6%増で、特に海外が前年より大きく増えています。営業利益は前年同期 $\Delta 38.9\%$ で冒頭申し上げたように、原材料費、特に鋼材価格の高騰による影響、中国は鋼材価格の上昇に加えて、人件費等の一般的な販管費が大きく増えています。



国内

- ・プラント製品、対前年同期比 Δ 10.4%
- ・メンテナンス、対前年同期比 Δ 2.7%

海外

コロナ前の商況へ回復

- ・対前年同期比 +35.5%
- (輸出:対前年同期比 +1020.2%
- 中国:対前年同期比 +13.1%
- タイ:172百万円売上)

※日工上海
売上は予算通りの進捗も、利益は鋼材価格等の原材料費の高騰、人件費の上昇により未達

※タイ
下期に向け3台、来期向け1台注残
製造現地法人工場竣工、12月末より稼働

海外受注高・受注残高

	受注	受注残高
中国(日工上海)	34.4億円 (+47.7%)	26.0億円 (+56.6%)
タイ販売会社(NAT)	2.4億円	2.3億円
タイ製造現法(NIC)	0.7億円	0億円
輸出	6.3億円	2.5億円

□ APの国内と海外についてです。国内の売上高に関してはプラントの製品、メンテナンスとも前年同期よりマイナスとなりました。海外は、中国、タイに加えて昨年はコロナの影響でほぼ輸出が0でした。今期は、輸出が少し戻っていますが、ほとんどが台湾向けです。ロシアに関してですが、ロシアの状況について説明しますと、当社も3年ぐらい前まではロシアは有望な海外市場ということで、年に2~3台APを輸出をしておりました。3年前からルーブルが、大きく下落したことによって、この3年間はロシア向けの売上は0です。ただパーツの売り上げが年間20百万円程度ありますので、今後、今の状況が続けばマイナスとして影響が出てくるということになります。

海外の受注高、受注残高は、日工上海に関しては今期の受注額が34億40百万円、対前年比で47.7%のプラスとなりました。タイに関しては、受注は前年はまだスタートしていなく2.4億円、製造現法は0.7億円。輸出が6.3億円となっています。

受注高

(累計) (単位:百万円)



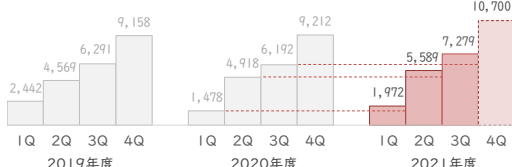
▶ 受注高

・対前年同期比 +16.0%

(要因)

災害復旧工事の終息や新型コロナウイルス感染症などの影響による工事の遅れなどで、生コン出荷数量は減少するものの、市況の安定によりユーザーの高い投資意欲が継続

売上高



▶ 売上高

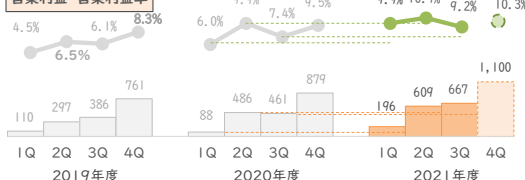
・対前年同期比 +17.6%

・プラント製品、対前年同期比 +25.3%
 ・メンテナンス、対前年同期比 +9.7%

(要因)

・2Qのお盆工事物件の増加に引き続き、3Qも売上高が増加

営業利益・営業利益率



▶ 営業利益

・営業利益、対前年同期比 +44.7%
 ・営業利益率、対前年同期比 +1.8pt

(要因)

・売上高の増加にともなう営業利益の増加
 ・計画生産によりコストダウンを図ることができ利益率が向上

- BPです。BPの今期の受注高は前年同期比16%増になりました。生コンの出荷量は最初にお話したように、対前年比微減であるものの生コン単価の上昇が続いています。その分、お客様にとって投資余力が出てきており、我々BPメーカーにとっては追い風が吹いています。当面、この状況は続くと考えています。BP売上高は前年同期+17.6%、営業利益は+44.7%と大幅に増えました。

BPに関しては市場全体が非常に好調と言うことで、競合他社も当社に負けず劣らず非常に好調に推移をしていると聞いています。お客様からすると、発注をされてから納品までの時間がある程度かかるということについて、了解済みです。このため、メーカーとしては、ある程度計画的な生産が今できており、売上が増えていることに加えて生産効率も上がり、BP全体の利益が非常に好調となっています。

受注高

(累計) (単位:百万円)



受注高

対前年同期比 Δ 11.6%

(要因)

脱水ケーキ乾燥設備向け装置 1台 76百万円

売上高



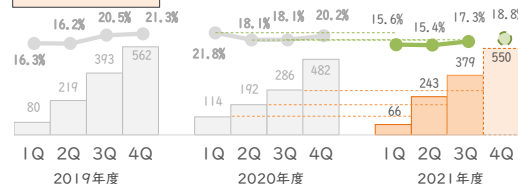
売上高

対前年同期比 +39.6%

(要因)

・搬送: コロナの影響にからの回復傾向が継続
 環境: 廃蛍光灯処理設備向けドライヤー 1箇所
 ゼネコン向け土壌乾燥設備 1箇所
 飲料容器選別圧縮装置 1箇所
 など150~300百万円の中規模案件売上

営業利益・営業利益率



営業利益

・営業利益、対前年同期比 +32.5%
 ・営業利益率、対前年同期比 Δ 0.9pt

(要因)

・売上増による増益

□環境および搬送関連です。受注は前年同期と比べて Δ 11%、売上高は同+39.6%となっています。搬送に関してはここ数年、ほぼ売上・利益とも横ばい状態で推移しています。このセグメントは、環境関連の製品の売上がどれだけあったか、受注がどれだけあったかによって振れてきます。今期に関しては環境関連の製品の売上高があり、前年よりも売上が約+40%となりました。

受注高

(累計) (単位:百万円)



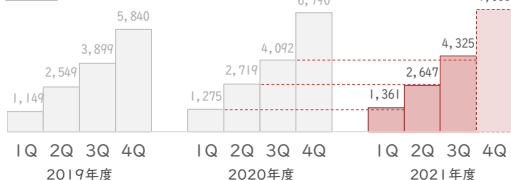
受注高

・セグメント全体対前年同期比 $\Delta 11.8\%$

新規事業

・モバイルプラント(MP)製品前年同期 601百万円(20台)
→ 834百万円(22台)

売上高



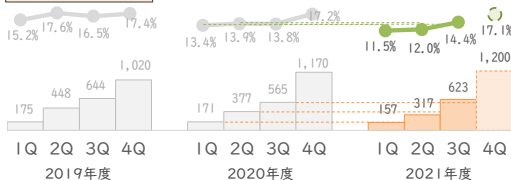
売上高

対前年同期比 +5.7%

+要因: ・MP製品前年同期 534百万円(19台)
→ 970百万円(25台)
・防水板前年同期比 +112百万円

△要因: ・仮設機材: $\Delta 13.8\%$
民間建設投資に於いて、コロナ禍の影響で建築確認申請の遅れと利益減少があり見直しや延期が発生。鋼材の高騰により仮設レンタル会社の購買意欲が減少
・破碎機: $\Delta 24.6\%$

営業利益・営業利益率



営業利益

・営業利益、前年同期比 +10.3%
・営業利益率、前年同期比 +0.6pt

★その他事業の売上構成 (21年度上期)

仮設機材 26.1%、防水板・水門 16.6%、
土農工具 12.3%、モバイル17.2%、破碎機 5.5%、
開発製品 16.6%、他 5.5%

□その他の事業です。その他事業の受注高は前年と比べてマイナスで推移しました。我々が注力しているモバイルプラントは前年よりも受注額を増やしており、好調に推移しています。このセグメント全体の売上高は前年同期比+5.7%です。注力しているモバイルプラントと防水板が増えた一方、仮設機材が少し低調、破碎機が低調となっています。営業利益は前年同期比+10.3%になっています。

2021年度第3四半期 経常利益 増減要因分析



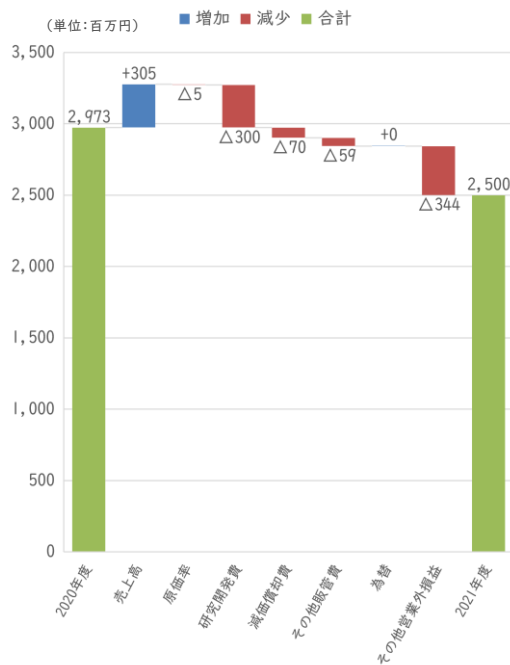
項目	影響額	内容
売上高	+679	売上 (+2,533百万円)
原材料費	△221	原材料費の上昇
原材料費を除く原価率	+240	原材料費の上昇分を除く原価率
販管費	△541	人件費 △153百万円 輸送費 △90百万円
為替	△10	
特別配当金	△344	昨年の特別配当金剥落
その他営業外	△108	

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022All rights reserved.

16

□第3四半期の経常利益を前年と比較した増減要因分析です。今期は前年と比べて経常利益で3億5百万円の減益となりました。右側に増減の要因分析を入れていきます。売上が増えたことによる利益貢献が+6億79百万円、原材料費の上昇によるマイナスが▲2億21百万円、原材料費を除く原価率の改善によるプラスが+2億40百万円、販管費増が5億41百万円となっています。

2021年度通期 経常利益 増減要因分析(予想)



(単位:百万円)

項目	影響額	内容
売上高	+305	売上高の増加 +1,134
原価率	Δ5	原価率の上昇 73.09% →73.10%
研究開発費	Δ300	
減価償却費	Δ70	
その他販管費	Δ63	
その他営業外 (配当金収入)	Δ344	特別配当金344剥 落

バランスシートの推移



(単位：百万円)

		2020年度3Q	2021年度3Q	増減	増減の主な要因
資 産	流動資産	30,779	32,321	+1,542	増加：現金及び預金 +2,797百万円 仕掛品 +1,329百万円 その他 +324百万円 減少：受取手形及び売掛金 △1,453百万円 電子記録債権 △373百万円 商品及び製品 △1,089百万円
	有形固定資産	8,674	9,993	+1,319	増加：建物及び構築物 +1,128百万円 機械装置及び運搬具 +188百万円 土地 +346百万円 のれん +115百万円 その他 +235百万円
	無形固定資産	538	889	+350	減少：繰延税金資産 △135百万円
	投資その他	6,452	6,144	△308	
総 資 産 合 計		46,444	49,348	+2,903	
負 債	流動負債	13,226	15,276	+2,050	増加：ファクタリング未払金 +364百万円 短期借入金 +1,190百万円 契約負債(前受金) +912百万円 減少：電子記録債務 △236百万円 受注損失引当金 △205百万円 長期借入金 △372百万円
	固定負債	3,373	2,896	△477	
純 資 産 合 計		29,844	31,175	+1,330	増加：利益剰余金 +739百万円 為替換算調整勘定 +202百万円 その他有価証券評価差額金 +170百万円 為替換算調整勘定 +232百万円 退職給付に係る調整累計額 +113百万円
株 当 た り 純 資 産 (円)		780.90	813.93	+33.03	

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

18

□ バランスシートです。前年同期3Qとの比較です。総資産は約30億円増え、493億円となりました。増えた理由は有形固定資産の増加です。流動資産も増えていますが特に有形固定資産が増えているのはタイの工場の建設に伴う増加と子会社の日工電子で新社屋を立てたことによる建物構築物の増加が大きな要因となっています。純資産は311億75百万円と前年より13億30百万円増になっています。

2021年度 3Q決算ハイライト	▶ P. 3-4
2021年度3Q決算説明	▶ P. 6-18
トピックス 次世代メンテナンス(サブスク)	▶ P. 20-23
株主還元方針、株主優待	▶ P. 24
参考資料	▶ P. 26-29
会社情報	▶ P. 31-35

※本資料の増減数値は単位未満の端数処理により
未端数値が四半期報告書と異なる場合があります。

次世代メンテナンス (予知保全)

プラント検診から始まる

プラント保全サービスのサブスクリプション契約

これからは
「予知保全」
予兆が「見える」
更新時期が「わかる」

数種類の **サービスサブスクリプションプラン** のオプション選択が可能

サービスメニュー	リモート監視	新サービスプラス1 現状保守 + 定期検診サービス	新サービスプラス2 計画修理中心の部分的な 保守サブスクリプションサービス	新サービスプラス3 計画・事後含むトータルでの 保守サブスクリプションサービス
概要	<ul style="list-style-type: none"> プラント稼働状況のデータベース化 	<ul style="list-style-type: none"> リモート監視に加え、プラント検診を実施 検診データに基に部品交換時期をアナウンス・部品交換実施 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的修理を一部追加 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 電気部品の交換 ✓ 定期的な操作盤PC交換 ✓ 手間の掛かりにくい数年に1度の大型 計画修理 	<ul style="list-style-type: none"> 保全計画を策定・実行

プラス1、プラス2より開始 ▶▶▶ データを蓄積しプラス3へ

21年度スタート、12月末現在8件、次世代メンテナンス契約 (定期検診)
(うち2件はプラス2契約締結)

- 今回のトピックスで、今年度から定額でお客様から料金を頂いてサービスを提供するメンテナンスサービスのサブスクリプション事業を始めましたので、責任者の田中から少し説明させていただきます。
- 次世代メンテナンスについて、説明させていただきたいと思います。今後ユーザーのメンテナンスの増大、特にアウトソーシングが増えていくと予想しています。大きな機械は、そうした対応が当然メーカーに依存される状況になると思います。その中で今回、新しいビジネスモデルを導入して行きたいと考えています。
- 車でもサブスクリプションが徐々に増えていますが、我々の機械のメンテナンスに関してもいくつかのメニューを用意させていただき、お客様にサブスクリプションを選んでいただく形で、昨年6月ぐらいからPRを進めています。機械装置が、大きいので装置全てを対象にするのが本来の形と思いますが、まだ始まったところでおお客様の状況に合わせて、1つ目は定期検診サービスをおこないメンテナンスの提案を我々の方からさせていただくという形のプラス1。2つ目として特にお客様が苦手な電気関係などを我々が一式請け負って保守サービスをやっていくというプラス2。最終的にはプラント全体を我々メーカーで、メンテナンスを全てやっていくプラス3を、今回新しいビジネスモデルとして提案をさせていただいている途中です。
- 昨年12月末時点で8件のご契約を頂いており、徐々に次世代メンテナンスが浸透して行くと予測をしています。今回、受注した内容は、プラス1が6件とプラス2が2件となっています。

ユーザーメリット

緊急トラブル削減

- ・プラントの生産性が向上
- 信頼性が向上
- 安定稼働が実現

対象設備の管理

- ・日工にて対象設備を保安全管理
- ・自社での管理業務が不要に
- ・プラントメーカーの管理で安心

定額制

- ・予算コントロールが可能
- ・対象範囲は緊急対応費が無料に
- ・事後保全よりもお得な料金設定

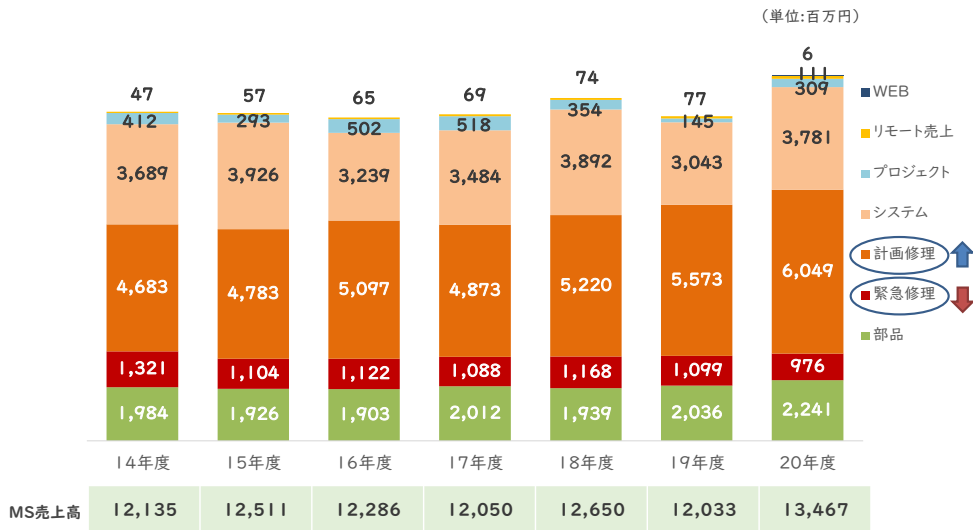
日エメリット

- ・客先の緊急トラブル対応の低減
- ・定期保全によるコスト削減
- ・無償点検から有償点検へ

ユーザーの営業機会損失削減

□ユーザー側には営業機会損失を防ぎたいニーズがあります。緊急のトラブルによって修理が発生してしまい、今までほとんどの修理がアフターで対応する形になっていました。急に機械が止まってしまいプラントユーザーのお客様（アスファルト合材を使う方、生コンを使う建設業の方）に迷惑をかけることによって、信頼を損なってしまうこと、営業機会を逃がしてしまうことをできるだけ改善したいというところがあります。急に修理費用がかかることも、対象設備がどんどん複雑になって自社では管理できず予算のコントロールが出来ないというところを改善して行くことも、ユーザー様のメリットになると考えています。

□我々の方のメリットは、急に壊れて修理していたものが緊急トラブルが少なくなってくる。それによって我々は計画的な動きができ、それによってコスト削減ができると考えています。点検に関しても今までスポットで無償で点検していたものが、計画的な点検を有償点検に切り替えることにより我々も大きなメリットがあると考えています。

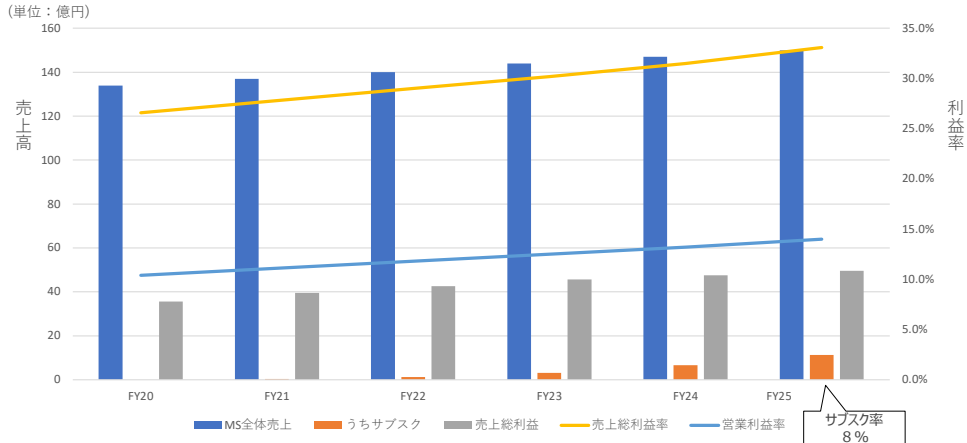


※次世代メンテナンスにより、緊急修理を削減し計画修理を増加させる

- 現行のメンテナンスにおける売上構成です。メンテナンスの中に部品パーツだけの販売、基本的にアフターで対応する緊急の修理、前もってお客様と詰めた内容でやっていく、定期整備的な計画修理があります。それ以外は、装置の一部を入れ替えるシステム的なもの、高速道路などのプロジェクトも存在します。
- 今回我々の中で進めていきたいのは、この緊急修理を減らして、計画修理を増やして行くことです。これが完結すると最終的にはお客様の営業機会損失というのは減っていくことになり、お客様に受け入れてもらえる内容と考えています。現状も緊急処理が減り計画修理が増えている状況にはなっていますが、よりこれを進めていくと考えて、新しいビジネスモデルを導入致します。

ターゲット

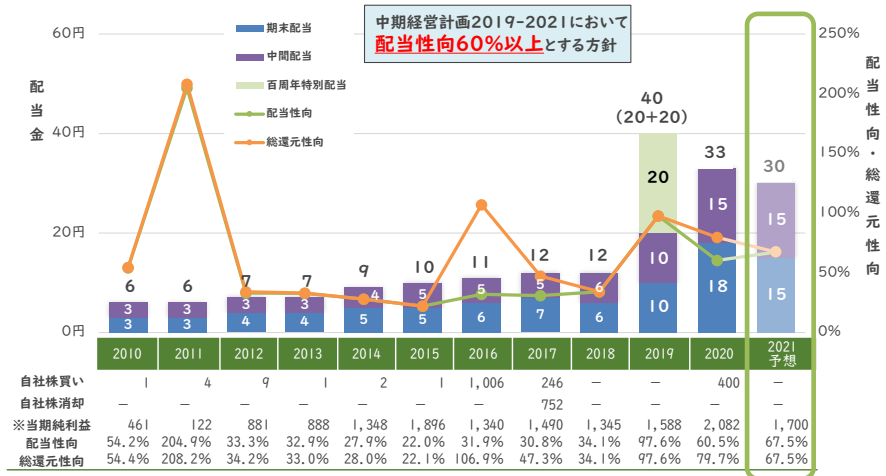
AP	日工製全AP	約820台 (リサイクルのみ日工製を含む) のうち 570台
BP	日工製全BP	約1,022台 のうち 675台



□我々の目標としては現在、サブスクリプションはまだスタートして8件しか契約していませんが25年度には全体の8%位のサブスクリプション契約は受注したいと考えています。それにより今までできなかった仕事以上のことができる、ボリュームも稼げる、なおかつ利益も稼げることになり、最終的にはメンテナンスサービスの売上を150億円近くまで向上させていきます。

● 株主還元の強化

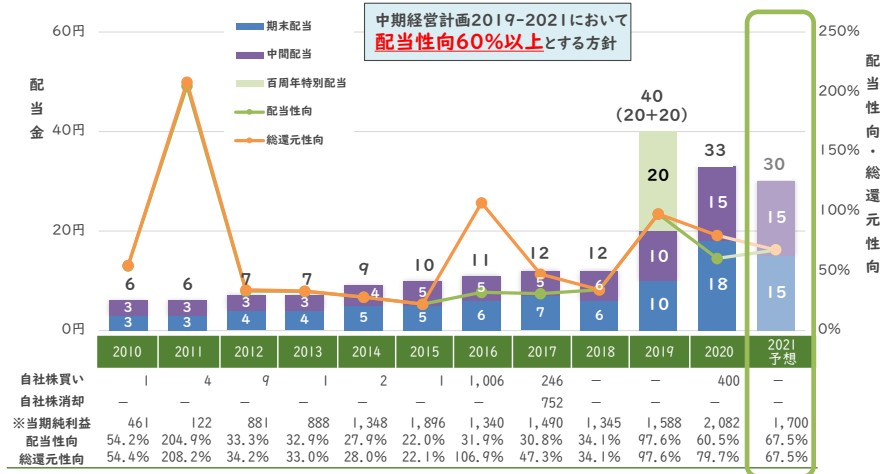
2022年3月期の配当金30円(中間15円、期末15円)
(配当性向67.5%) 予定



★2019年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しており、分割後の配当金額に統一して記載しています
※当期純利益=親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)

● 株主還元の強化

2022年3月期の配当金30円(中間15円、期末15円)
(配当性向67.5%) 予定



★2019年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しており、分割後の配当金額に統一して記載しています
※当期純利益=親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)

2021年度 3Q決算ハイライト	▶ P. 3-4
2021年度3Q決算説明	▶ P. 6-18
トピックス 次世代メンテナンス(サブスク)	▶ P. 20-23
株主還元方針、株主優待	▶ P. 24
参考資料	▶ P. 26-29
会社情報	▶ P. 31-35

※本資料の増減数値は単位未満の端数処理により
末端数値が四半期報告書と異なる場合があります。

売上高・利益・キャッシュフロー等の推移



(単位:百万円)

	19年度				20年度				21年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	8,001	9,139	7,422	10,589	7,271	10,954	6,407	13,234	8,817	10,191	8,157	
AP関連事業	3,917	4,750	3,789	5,062	3,991	5,536	3,247	6,693	5,058	4,131	4,176	
BP関連事業	2,442	2,127	1,722	2,867	1,478	3,440	1,274	3,020	1,972	3,617	1,690	
環境及び搬送関連事業	492	861	561	720	524	535	513	818	424	1,157	614	
その他事業	1,149	1,400	1,350	1,941	1,275	1,444	1,373	2,698	1,361	1,286	1,678	
営業利益	276	683	81	1,013	408	592	△96	1,398	375	593	59	
AP関連事業	222	454	△53	495	340	300	△105	704	199	189	△61	
BP関連事業	110	187	89	375	88	398	△25	418	196	413	58	
環境及び搬送関連事業	80	139	174	169	114	78	94	196	66	177	136	
その他事業	175	273	196	376	171	206	188	605	157	160	306	
全社費用	△313	△370	△322	△404	△305	△391	△248	△525	△244	△345	△382	
経常利益	361	673	129	979	979	609	△89	1,474	519	586	89	
親会社株主に帰属する当期純利益	270	733	△33	618	746	353	△133	1,116	378	489	838	

営業CF	3,809				2,784							
投資CF	△609				△1,867							
配当金総額	229	—	775	—	775	—	572	—				
自社株取得額	0				400							

事業別受注高と受注残高の推移（累計ベース）



（単位：百万円）

受注高（累計）	19年度				20年度				21年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
AP関連事業	3,575	8,419	11,196	16,133	5,256	9,835	14,102	20,279	4,519	9,048	13,072	
BP関連事業	1,969	4,313	6,315	9,478	2,061	4,823	7,278	9,961	3,142	5,646	8,442	
環境及び搬送関連事業	449	1,187	1,787	2,401	746	1,374	2,290	2,875	523	1,286	2,025	
その他	1,325	2,923	4,578	5,902	1,405	3,001	5,222	6,894	1,568	2,820	4606	
合計	7,320	16,843	23,877	33,915	9,469	19,036	28,893	40,009	9,753	18,802	28,146	

期末受注残高	19年度				20年度				21年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
AP関連事業	8,466	8,561	7,548	7,424	8,688	7,732	8,751	8,235	7,696	8,094	7,942	
BP関連事業	2,967	3,184	3,464	3,760	4,342	3,665	4,845	4,508	5,678	4,565	5,672	
環境及び搬送関連事業	342	219	258	152	373	467	869	636	734	341	466	
その他	997	1,194	1,498	883	1,013	1,165	1,553	981	1,187	1,154	1,261	
合計	12,773	13,158	12,769	12,219	14,417	13,030	16,479	14,361	15,298	14,155	15,342	

設備投資、減価償却費、研究開発費、非財務データの推移



(単位:百万円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
設備投資	292	335	844	815	877	1,261	550	1,889	1,483	2,748
減価償却費	432	389	395	422	487	482	472	508	611	677
研究開発費	239	256	295	276	227	271	291	211	379	392

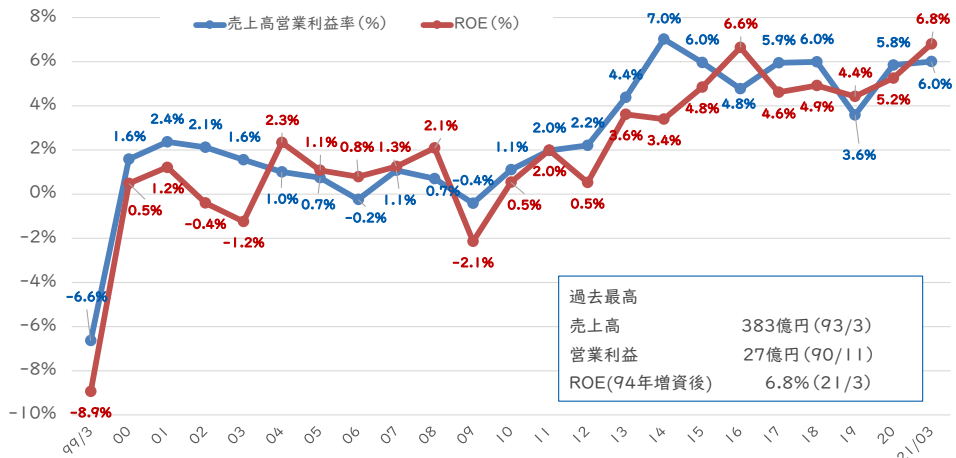
(単位:人、歳、年)

連結従業員数	775	763	767	796	803	797	807	799	838	861
従業員平均年齢(単体)	44.2	44.7	43.3	43.1	42.2	42.3	42.2	40.9	41.1	41.1
平均勤続年数(単体)	21.5	21.2	20	19.3	18.2	18.5	18.3	16.0	15.8	15.4
女性社員数(単体)	28	31	31	33	39	42	42	45	51	55
新卒採用者数(単体)	13	15	21	21	30	17	19	15	14	29
新卒女性社員採用数(単体)	1	0	1	3	1	2	0	0	0	3
女性社員採用割合(単体)	7.6%	0%	4.7%	14.2%	3.3%	11.7%	0%	0%	0%	10.3%
外国人採用数(単体)	1	0	6	0	0	0	1	1	0	1
外国人従業員数(単体)	2	2	8	6	6	6	7	8	5	5
外国人従業員(連結)	92	90	91	95	94	93	101	98	116	116
海外従業員数(連結)	92	90	91	95	92	91	101	98	123	121

環境負荷軽減新製品

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
新製品名	【砂専用乾燥装置】 【高温予熱バーナ】	【NTB-IIバーナ】	【新型バグフィルタ】	【VPシリーズAP】	—	【フォームAS製造装置】
環境負荷軽減項目	・プラント生産効率UP ・省エネルギー	・省エネルギー ・燃焼領域での燃焼効率UP	・省スペース ・省エネルギー ・排ガス量低減 ・低騒音	・再生材の臭気ガス拡散防止	—	・中温化合物の製造対応

営業利益率・ROE



過去最高
 売上高 383億円 (93/3)
 営業利益 27億円 (90/11)
 ROE(94年増資後) 6.8%(21/3)

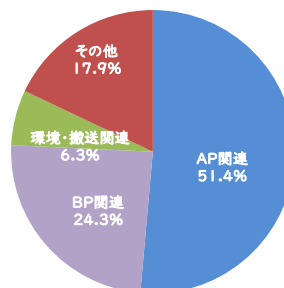
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20/03	21/03
売上高	22,157	22,595	23,170	24,307	24,812	24,864	22,175	25,035	26,942	23,856	23,971	23,803	24,553	27,087	32,073	30,707	34,110	32,717	35,114	31,780	35,151	37,866
営業利益(損失)	352	536	492	379	248	185	▲55	271	189	▲98	265	470	541	1,186	2,249	1,832	1,629	1,944	2,103	1,427	2,053	2,302
経常利益	201	846	664	688	492	537	350	699	545	482	899	812	621	1,108	1,982	1,582	1,648	1,993	2,239	1,576	2,142	2,973
当期純利益(損失)	121	298	▲93	▲284	567	265	203	315	513	▲499	124	461	122	881	888	1,348	1,896	1,340	1,490	1,345	1,588	2,082

2021年度 3Q決算ハイライト	▶ P. 3-4
2021年度3Q決算説明	▶ P. 6-18
トピックス 次世代メンテナンス(予知保全)	▶ P. 20-23
株主還元方針、株主優待	▶ P. 24
参考資料	▶ P. 26-29
会社情報	▶ P. 31-35

※本資料の増減数値は単位未満の端数処理により
末端数値が四半期報告書と異なる場合があります。

会社名	日工株式会社 (Nikko Co., Ltd)	
本社住所	兵庫県明石市大久保町江井ヶ島1013-1	
創立	1919年(大正8年)8月13日	
資本金	91億97百万円	(2021年3月末)
連結売上高	378億66百万円	(2021年3月期)
連結営業利益	23億02百万円	(2021年3月期)
海外売上高比率	9.9%	(2021年3月期)
子会社数	10社	(2021年3月期)
連結従業員数	861名	(2021年3月末)
企業統治体制	監査役会設置会社 取締役7名(うち社外2名) 監査役4名(うち社外3名)(2021年3月末)	

事業別売上構成比率(2020年度)



※AP=アスファルトプラント
BP=パッチャープラント(コンクリート)



経営理念

日エグループは、「お客様第一主義」を経営理念とし、お客様に真に満足いただける製品とサービスを提供するとともに、広く社会から信頼され、お客様と共に発展する“ソリューションパートナー”となることを使命に、自己変革してまいります。

取締役社長 辻 勝

事業セグメント



AP関連事業



主要製品: ●アスファルトプラント ●リサイクルプラント ●破砕プラント ●合材サイロ
●電子制御機器、工場管理システム



アスファルトプラント (MBD)

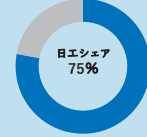


新型アスファルトプラント (VP II)



破砕プラント

市場シェア(日工調べ)



BP関連事業



主要製品: ●コンクリートプラント ●コンパクトコンクリートプラント ●コンクリートポンプ
●電子制御機器、工場管理システム ●コンクリート製品生産用工場設備等



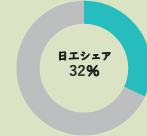
噴発カミキサ (DASH-Hyper)



BP統合マネジメントシステム
(Cyber Advance)



バッチャープラントDASH-H275RAV-TRIU



環境及び搬送関連事業



主要製品: ●ベルトコンベヤ、設備用コンベヤ、缶・ビン選別機
●油汚染土壌浄化プラント、プラスチックリサイクルプラント



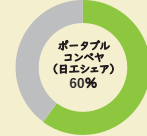
モジュラーベルトコンベヤ



スーパーモジュラーコンベヤ



コンパクト破砕機 (チョイ割るのジョー)



その他事業



主要製品: ●パイプ枠組足場、鋼製運板、パイプサポート ●アルミ製仮設昇降階段 ●ショベル、スコップ、モルタルミキサ
●水門、防水板、破砕機 ●不動産賃貸、建設機械製品リース ●住宅リフォームの販売等



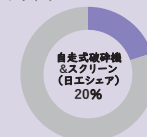
自走式破砕機



ロールブレーカー



防水板



製品展開	生産拠点展開	海外展開	国内グループ展開 (買収・譲渡含む)
1919 創立 トンボ印の農土木工具	1919 本社工場	1994 独ニココ-パウマ-シーネン	1968 市石工業所 (M&A)
1951 コンクリートミキサー ・ウィンチ	1938 産機工場	1997 台湾台北	1971 日エ電子工業 (設立)
1956 生コンプラント	1968 東京工場	2001 日エ (上海) 工程機械	1983 日エマシナリー (設立)
1958 アスファルトプラント	1994 幸手工場	2010 山推礎天工程機械	1994 トンボ工業 (設立)
1962 パイプサポート	2004 上海嘉定工場	2020 日エアジア (タイ)	1995 日エセック (設立)
1963 パイプ足場	2014 加古川工場	2020 日エニルコソル (タイ)	2002 新潟鉄工所 (事業譲受)
1966 コンベア・搬送システム	2016 福崎工場		2006 三菱重工業 (事業譲受)
1983 水門			2008 前川工業所 (M&A)
2000 油汚染土壌浄化システム			
2001 廃プラスチック処理システム			
2007 コンクリートポンプ			
2015 破砕機 (輸入販売)			



日エグループ経営ビジョン

*n*からはじまる未来創造

アスファルト・バッチャープラントのリーディングカンパニーであり続けます。

海外事業を拡大しアジアマーケットにおけるNo.1メーカーを目指します。

当社のコア技術「加熱」「混練」「搬送」「制御」をブラッシュアップし事業拡大を行います。

社会貢献できる未来創造企業であり続けます。

代表取締役社長 辻 勝



- 日工グループが取り組む3つの社会課題
- 1.カーボンニュートラルへの対応
 - 2.廃材の再資源化と循環型社会の確立
 - 3.災害の厳格化と早期復興



ミーティングのご希望などございましたら、お気軽に以下宛ご連絡ください
(オンラインミーティング、東京でのミーティングも可能です)

TEL 078-947-3141 IR-nikko@nikko-net.co.jp

日工株式会社 財務部 八軒(はちけん)宛

- 当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。
- 当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しが変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、投資判断を決定する場合には、当資料の将来の見通しにのみを依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。
- また、当資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更する事もありますので、ご了承ください。

報道関係者各位

(2022年3月2日)
日工株式会社

日工株式会社、宇部興機株式会社を子会社化

～ 国内収益基盤の強化、新規事業拡大の実現～

アスファルトプラントの製造販売を行う日工株式会社(本社 兵庫県南州市、代表取締役:辻 勝 証券コード:6306)以下、「日工」は、2022年3月1日(火)に附属設備・産業機械の設計・製作・販売・設備稼働を行う宇部興機株式会社を完全子会社化し、子会社化したことをお知らせします。今回の子会社化に伴い、宇部興機株式会社の代表取締役社長は日工執行役員の出田和寛が兼任いたします。



背景と目的

日工グループは「2019-2021 中期経営計画」において10年後を見据えた長期基本方針を掲げており、国内収益基盤の強化、新規事業拡大の推進の一環として本件を実施するものです。

宇部興機株式会社は道路工事、橋・自動車・航空機・食品・医薬品等向けの設備製造やプラント工事をはじめ、水門・橋梁・上下水道等の社会インフラ設備工事に関する幅広い社会インフラ設備の製作、組立工事を展開しております。また、太陽光発電LED照明、生ゴミや家庭排水物などの有機性のエネルギー資源を廃棄させたときに発生するバイオガスの生成・貯蔵タンク(ガスホルダー)の自社製品を開発し、環境分野での事業展開を積極的に推進しています。

本件統合を契機により、両社の技術・ノウハウ等を共有することで、日工グループが注力している環境リサイクル事業に新たなシナジー効果を生み出し、日工グループの新規事業の拡大を進め、お客さま満足度をより一層高めるとともに日工グループの企業価値の向上を進め、持続的な成長を図っております。

新役員体制

役職	氏名
代表取締役社長	山田 和寛
常務取締役	西田 竜善
常務取締役	稲野 正明
取締役	朱谷 英一
取締役	小川 博弘
監査役	奥田 康典
監査役	川上 晃一



日工株式会社について

1919年、世界的に売れた新式機油車により自動車、スクラブなどの工具製作から始まり、今日は日本のインフラを支えるプラントメーカーとして事業展開を行っています。アスファルトプラントの国内シェアは30%以上、営業などの販売インフラから製造まで一貫したサービス体制を構築しています。

会社名 日工株式会社
所在地 〒719-0205 兵庫県南州市大久保町長津島1-1-1
代表者 辻 勝(代表取締役)
資本金 約 1億 9700 万円
設立 1919年6月13日
従業員数 約 16 名(連結 2021年3月期)

URL <http://www.nikko-net.co.jp/>

事業内容 アスファルトプラント、建設機械等の製造販売

宇部興機株式会社について

1969年に創業。道路工事・土木事業を基幹として、電力・自動車・航空機・食品・医薬品等向けに設備製造やプラント工事をはじめ、水門・橋梁・上下水道等の社会インフラ設備工事に関する幅広い社会インフラ設備に取組んでまいりました。同時に環境分野での事業展開を積極的に推進しており、ガスホルダー事業や太陽光発電事業にも注力し、地球温暖化防止や次世代エネルギー等、循環型社会の実現に貢献する事業に取組んでいます。

会社名 宇部興機株式会社
所在地 〒759-0134 山口県宇部市大字善和寺大目 200-2-20
代表者 山田 和寛(代表取締役)
資本金 約 100 万円
設立 1969年4月1日
従業員数 71 名

URL <http://www.ube-kohki.co.jp/>

事業内容 道路工事・土木・機械製造・工業・機械器具製造・工業・水道施設工・プラント工事―総合産業機械・インフラ設備・環境関連機器(ソーラーLED照明機)・ガスホルダー 精密機油車およびレーザー加工・工場保全
上記における設計・製作・頒行

最近3年間の業績(単位:百万円)

決算期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	1,000	2,240	2,323
営業利益	30	100	200
経常利益	14	190	214
当期純利益	50	50	71

- 最後に、山口県の宇部興機株式会社を3月1日付で買収しましたので、お伝えします。買収の背景と目的ですが、我々の主力事業は30～40年AP、BPで変わっていません。第3の柱をなんとか育てたいということで、今特に力を入れているのは当社のコアの技術である乾燥・加熱、混錬などの技術の延長線上で、一番有効と思われる環境リサイクル関連のプラントです。この分野を伸ばすために、宇部興機と一緒にやっていくことが相乗効果があると判断して、買収をしました。
- 当社の、製造ラインは基本的にAP、BPを作る設計になっています。我々としては新しい分野のプラントを受注をして作って売りたいのですが、現状の当社製造設備を使って新しいものを作ることが生産効率が良くない中、宇部興機がそういったものを幅広くお客様から受注し、設置据付工事まで一貫していると言うことが決め手になりました。お客様筋も日本を代表する、鉄鋼メーカーや化学メーカーであり、お客様からの製品のクオリティに対する信頼も高いと思っています。
- 宇部興機の現在の、事業規模は2021年3月期の売上高25億23百万円、営業利益2億8百万円、経常利益2億11百万円、当期純利益71百万円の規模です。3月1日付で買収したため、今期の決算に与える影響は殆どありません。今期の損益に関しては取り込みは無くゼロです。来期の決算は通期で宇部興機の数字が現状に上乗せされてくることとなります。